



▲クロジ ♂・成鳥 2016.12.31. 綾歌郡綾川町羽床上大高見峰 PHOTO©岩田篤志
※鳥類標識調査(環境省から(公財)山階鳥類研究所への委託事業)の一環として、許可を得て捕獲しています。

今年にクロジに期待 一昔はどうなの？

クロジ *Emberiza variabilis* は本州中部以北で繁殖し、本州南西部以南で越冬するホオジロ科の鳥です。今年の北海道風蓮湖での鳥類標識調査では、アオジが平年の倍、クロジは平年の 2.5 倍の羽数が確認されたとのこと。暖冬のせい、香川県ではまだまだ冬鳥は少ないですが、今年はクロジとの出会いが期待ができそうです。

さて、日本鳥類目録改訂第 7 版では、四国の分布状況は RB(Resident Breeder)＝留鳥とされ、徳島のみ WV(Winter Visitor)＝冬鳥となっています。実際は、香川県では冬鳥。第 7 版の改訂の基礎データとなった香川県の分布状況は筆者がとりまとめましたが、そこでは冬鳥として報告しましたので、なぜ香川も留鳥扱いなのかは不明です。

ものすごく昔に何か繁殖記録があるのかもしれませんが、筆者は確認できていません。今のところ、確認できる最も古い文献は、1968 年刊行のものであり(岡内, 1968)、次のように書かれています。

(18) クロジ アトリ科 渡鳥(冬)

アオジに似ているが全体的に黒味が多い 10 月頃から県下で見られる。耕地や林中に多い チツ、チツと鳴き歩く。麦畑にいて昭和初期頃簡単に網で捕った経験が 40 50 才位の人はあると思う。

この記述を読むと、いくつか気になる点があります。当時、著者は①「アトリ科」と認識していたこと。そして②耕地や麦畑で簡単に捕れた、という点です。

バリエーションのある野鳥 -「チャボクロジ」って何？

まず①です。「アトリ科」というのは岡内氏が使っていた文献の分類がそうだったのでしょう(ホオジロもアトリ科になっているので)。現在はもちろんホオジロ科です。ただ、以前は雄の羽色が黒色と特徴的な点から、ホオジロ科ホオジロ属ではなく、ホオジロ科ミヤマシトド属や独立したクロジ属にすべきでは、という意見もあったようです。現在は分子系統学の研究成果も踏まえてホオジロ属となっていますが、かなりホオジロの仲間としては「変わり者」なのです。

実は、それよりも興味深い点があります。それは、クロジの「大きさ」。

現在、クロジの亜種は認められていませんが、本種にはより小型で、特に嘴が小さい個体が確認されることがあります。江戸時代からその存在は知られており、「こくろじ」と「おほくろじ」と分けて呼ばれていました(菅原ら,1993)。

これを踏まえて、1927年には、比叡山を基産地する南方の小型個体が、「亜種チャボクロジ」として発表されたこともありました。

現在では、亜種に分ける程の地理的変異ではないとして、亜種チャボクロジは認められていませんが、面白いのは、今でも京都府での鳥類標識調査では、明らかにこうした「小型クロジ」が認められること。計測してみても、2つのグループ(大型個体と小型個体)が混じっていることが確認されるそうです。

さらに、京都府で繁殖しているのは大型個体であり、今のところ繁殖期に小型個体が確認されているのはカムチャッカ半島のみとのこと(梶田,2016)。

この「小型クロジ」が何なのかは未だ不明ですが(今のところは単なるバリエーション扱い)、特に嘴の大きさに注意して見れば、香川県でも「小さいクロジ」に出会うかもしれません。

実は、激減していた野鳥

次に気になるのが、②です。昭和初期には、耕地や麦畑でクロジがいて、簡単に捕れたとのことですが(捕獲は現在違法です。念のため。)、現在の感覚では想像できません。クロジといえば暗い林内、そして個体数も少ないというのが一般的な印象かと思います。

この点について、「関西では主に冬鳥であるクロジは、1960年代には市街地の林から山間部にいたるまで数多く見られたが、1985年ごろには少なくなり、現在はクロジが出ればバーダーが集まるというくらいになっている。」(加藤,2001)という記述もありました。やはり全国的に、昔はクロジは「多い鳥」だったのです。

減少の原因は不明ですが、京都府では、クロジが営巣していたブナ林の林床に広がるチシマザサが、シカの食害と開花に伴う枯死で減少した事例が報告されています(梶田,2008)。ブナ林内のササ類という環境は、植林、下草刈り、シカの増加などで昭和時代にどんどん減少したと思われますが、クロジはその環境の悪化の影響をダイレクトに受けたのかもしれません。

特徴について

さて、ホオジロ属は「尾羽に白斑がある」というのが特徴ですが、クロジは「尾羽に白斑が無い」のが特徴です。このため、飛翔時の尾羽に白斑が見えたら「少なくともクロジではない」とアタリをつけることが可能です。

ただ、1点だけ注意点があります。細かく言うと、クロジの「成鳥」には白斑がありませんが、「幼鳥」では最外2対または1対の尾羽の内弁先端に小さな白斑があります(茂田,1995)。白斑というより、淡色の羽縁と言った方が良い程度で、野外で気になることは無いと思いますが、もし落鳥個体などに会った時にはご注意ください。

- ・1968, 岡内英孝. 香川県に於ける野鳥の生態, 岡内英孝
- ・1995, 茂田良光. 形態と識別 31 クロジ—黒鷲. BIRDER 9(9). 1995年1月号. 文一総合出版社
- ・1993, 菅原浩・柿澤亮三. 図説 日本町名由来辞典. 柏書房

- ・2016, 梶田学. 大きなクロジと小さなクロジ. BIRDER 30(1). 2016 年 1 月号. 文一総合出版社
- ・2008, 梶田学・梶田あまね. 京都大学芦生研究林におけるホオジロ類. ALULA No.37. ALULA 編集部
- ・2001, 加藤忠良. クロジは”バリエابل”な鳥!?. BIRDER 15(3). 2001 年 3 月号. 文一総合出版社
- ・2012, 日本鳥学会. 日本鳥類目録改訂第 7 版, 日本鳥学会